

For New Technology Network

NTN[®]

株主の皆様へ

第119期
中間
報告書

平成29年4月1日から
平成29年9月30日まで

NTN100

NTN Transformation for Next 100

証券コード 6472

NTN株式会社

新しい技術の創造と新商品の開発を通じて 国際社会に貢献する

For New Technology Network : 新しい技術で世界を結ぶ

1. 独創的技術の創造
2. 客先及び最終消費者に適合した付加価値技術及びサービスの提供
3. 着実な業績の伸長の下での社員の生活向上、株主への利益還元、社会への貢献
4. グローバリゼーションの推進と国際企業にふさわしい経営・企業形態の形成

目次

ごあいさつ	02	連結財務諸表	15
NTNの歴史	03	トピックス	17
トップインタビュー	05	Global Network	19
セグメント別の概況	11	会社情報・株式情報	20
事業形態別の概況	13	株主メモ	21

見通しに関する注意事項

本報告書には、NTNの将来についての計画・戦略・業績に関する予測と見通しが含まれています。実際の業績は本報告書で述べられている見通しと異なる可能性があることをご承知おきください。

ごあいさつ

NTN株式会社は1918年、当時の日本の工業発展に欠かせない技術であった玉軸受（ボールベアリング）の研究製作を皮切りに創業し、おかげさまで2018年3月1日に創業100周年を迎えることとなりました。

これまでの当社への多大なるご愛顧と数えきれないご支援に感謝するとともに、次の100年を見据えて、持続可能な社会の実現、ステークホルダーの皆様へより一層貢献できる企業への変革を進めてまいります。

代表取締役社長

大久保博司

M E S S A G E

100年の軌跡

ドライブシャフトの製造から50年
ベアリングの製造からまもなく100年

1918年

三重県桑名郡桑名町内堀の西園鉄工所で
ボールベアリングの研究製作を開始



初代社長 丹羽 昇 創業者 西園二郎

1923年

大阪市西区の巴商会と
西園鉄工所が提携し、
国産ベアリングの製造販売を開始

1927年

資本金5万円で
合資会社エヌシーエヌ製作所
を設立

1918~1960年代

1918年
創業

NTNの由来

丹羽のN、巴商会のT、西園のNのそれぞれの頭文字をとったものです。

1954年

機械工業界で
初のデミング賞を受賞



日本のベアリングメーカーとして
唯一受賞しているデミング賞

1960年

株式会社東洋ベアリング磐田製作所
(現 磐田製作所)を設立

1961年

ドイツに販売会社 NTN Wälzlager
(Europa) G.m.b.H.を設立

1962年

ドイツのSchaeffler社と技術提携し、
INA-NTNニードル工場を建設

1963年

イギリスのHardy Spicer社と
技術提携し、翌年からドライブシャフトの
生産を開始



旧本社 社屋

1937年

社名を東洋ベアリング製造株式会社に変更
株式を公開

1938年

兵庫県武庫郡に昭和ベアリング製造株式会社
(後の宝塚製作所)を設立
中国に日本のベアリングメーカーとして初の海外進出と
なる満州ベアリング製造株式会社を設立

1939年

桑名工場(現 桑名製作所)を建設

1984年

株式会社東洋ベアリング長野製作所
(現 長野製作所)を設立

1986年

わが国初の航空・宇宙ベアリング専門工場を
桑名製作所内に建設
インドの
National Engineering Industries Ltd.に
ベアリングの製造技術を提供

1980年代

1989年

社名をNTN株式会社に変更



1990年代

1971年

アメリカにベアリングの製造会社
AMERICAN NTN BEARING MFG. CORP.を設立
株式会社東洋ベアリング岡山製作所(現 岡山製作所)を設立
ドイツにベアリングの製造会社
NTN Kugellagerfabrik (Deutschland) G.m.b.H.を設立
香港に販売会社
NTN Trading-Hong Kong Ltd.(現 恩梯恩中国有限公司)を設立



現 アメリカ・シラパーク工場

1972年

社名をエヌ・テー・エヌ東洋ベアリング株式会社に変更

1973年

カナダにベアリングの製造会社 NTN Bearing-CAE Ltd.
(現 NTN BEARING CORP. OF CANADA LTD.)を設立

100th ANNIVERSARY

創業100周年 2018年

1990年

アメリカに統括会社 NTN USA CORP.を設立

1994年

桑名製作所が「ISO 9002」の認証を取得

1998年

タイにベアリングとドライブシャフトの製造・販売会社
NTN MANUFACTURING (THAILAND) CO., LTD.を設立
フランスにRenault社と合併でドライブシャフトの製造会社
NTN TRANSMISSIONS EUROPEを設立

1999年

国内全生産拠点および研究・開発部門において、
マルチサイト方式で「ISO 14001」の
審査登録を受領

2000年代



上海恩梯恩精密機電有限公司

2002年

中国にドライブシャフト部品と
ベアリングの製造・販売の合併会社
上海恩梯恩精密機電有限公司を設立

2003年

中国にドライブシャフトの製造・販売の合併会社
北京瑞韓恩梯恩汽車部件有限公司を設立

2004年

国内ベアリング製造のモデル工場として株式会社NTN三重製作所を設立
中国にベアリングの製造合併会社 常州恩梯恩精密軸承有限公司を設立
磐田製作所、桑名製作所、岡山製作所、長野製作所が
「ISO 9001」および「ISO/TS 16949」認証を取得

2005年

中国に統括会社 恩梯恩(中国)投資有限公司を設立
インドにドライブシャフトの製造・販売の合併会社
NTN NEI Manufacturing India Private LTD.を設立

2006年

ドイツのIFAグループのドライブシャフト製造会社である
IFA-Antriebsstechnik G.m.b.H.に資本参加
Renault社の子会社である
フランスのSNR ROULEMENTS社に資本参加

2007年

石川県に大形ベアリングの旋削会社 株式会社NTN羽咋製作所を設立

NTN
能登製作所



2010年

韓国に風力発電用ベアリングの製造・販売の合併会社
Seohan-NTN Bearing CO., LTD.を設立
ブラジルにドライブシャフトの製造・販売会社
NTN do Brasil Produção de Semi-Eixos Ltda.を設立
アメリカに鍛造・旋削・熱処理部品の製造・販売の合併会社
NTA PRECISION AXLE CORP.を設立
石川県に産業機械用ベアリングの製造・販売会社
株式会社NTN能登製作所を設立

2010年代

2008年

石川県に超大形ベアリングなどの
製造・販売会社
株式会社NTN宝達志水製作所
を設立

2009年

宝塚製作所を閉鎖
桑名に要素技術研究開発センター
(現:先端技術研究所)を開設
石川県に大形ベアリングの鍛造会社
株式会社NTN志賀製作所を設立



NTN三重製作所



NTN-SNR ROULEMENTS

2011年

インドネシアに販売会社 PT. NTN BEARING INDONESIAを設立
中国にハブベアリングとニードルベアリングの製造・販売の合併会社
恩梯恩LYC(洛陽)精密軸承有限公司を設立
中国にNTN中国技術センターを開設
日本科学冶金株式会社がNTN株式会社の子会社となる
中国にベアリングの製造・販売会社 南京恩梯恩精密機電有限公司を設立
中国に販売会社 恩梯恩東派(上海)軸承販売有限公司を設立
インドに販売会社 NTN BEARING INDIA PRIVATE LTD.を設立

2012年

タイに鍛造・旋削部品の製造・販売の合併会社
NTPT Co., Ltd.を設立

2013年

桑名に物流業務を専門とするNTN物流株式会社を設立
メキシコにハブベアリングとドライブシャフトの製造・販売会社
NTN MANUFACTURING DE MEXICO, S.A.DE C.V.を設立



NTN MANUFACTURING
DE MEXICO, S.A.DE C.V.

2014年

中国にドライブシャフトの製造・販売の合併会社
襄陽恩梯恩裕隆傳動系統有限公司を設立

2015年

アメリカにドライブシャフトの製造会社
NTN DRIVESHAFT ANDERSON, INC.を設立
NTN特殊合金株式会社と日本科学冶金株式会社が合併し、
NTNアドバンスマテリアルズ株式会社に社名変更



NTN DRIVESHAFT ANDERSON, INC. グリーンパワーパーク

2016年

先端技術研究所の敷地内に自然エネルギーの循環型モデル
グリーンパワーパークを建設



代表取締役社長 **大久保 博司**

Q 当第2四半期の経営成績についてお聞かせください。

A 当第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年9月30日）における日本経済は、雇用・所得環境の改善などから、緩やかな回復基調が続きました。海外においては、米国経済は自動車生産台数が前年割れとなる中、建設機械を中心に回復が見られ総じて堅調に推移しました。欧州経済は、EU離脱問題に伴う不透明感が一部であるものの緩やかに回復しました。中国やその他新興国では、景気は持ち直しの動きが見られました。

このような環境のもと、当社グループは平成27年4月にスタートした3年間の中期経営計画「NTN100」において、来年3月に迎える創業100周年と次の100年の持続的成長のため、「あるべき姿」に向けた変革と礎づくりを目指し、経営資源（ひと・もの・かね）を重点分野に集中する「攻める経営」、規模に依存せず価値を追求する企業へと変革する「稼ぐ経営」、経営基盤と財務基盤を強化する「築く経営」の3つを基本方針とし、諸施策を推進しております。

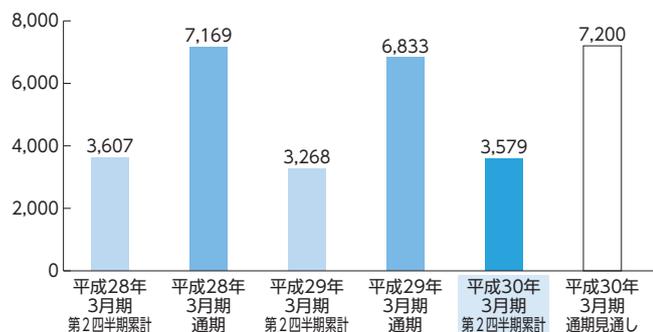
当第2四半期連結累計期間の売上高は、357,935百万円（前年同期比9.5%増）となりました。損益に

つきましては、営業利益は16,828百万円（前年同期比6.2%増）、経常利益は13,641百万円（前年同期比

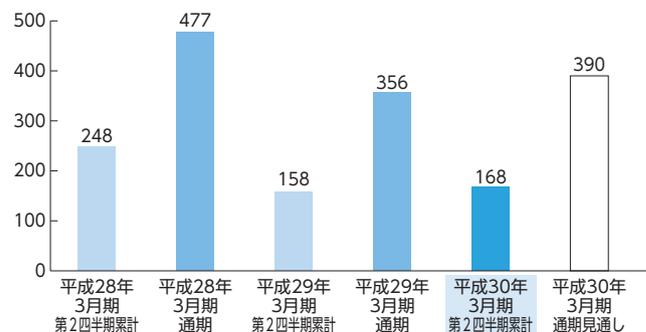
18.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8,381百万円（前年同期比36.8%増）となりました。

決算ハイライト

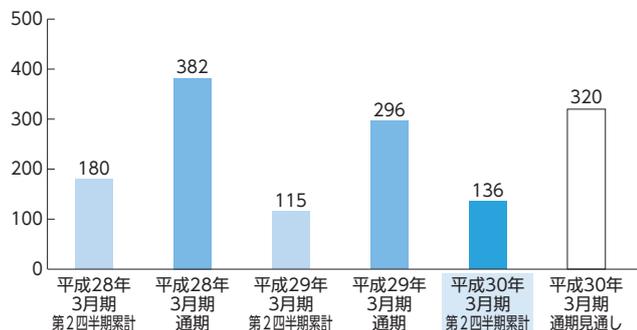
●売上高(億円)



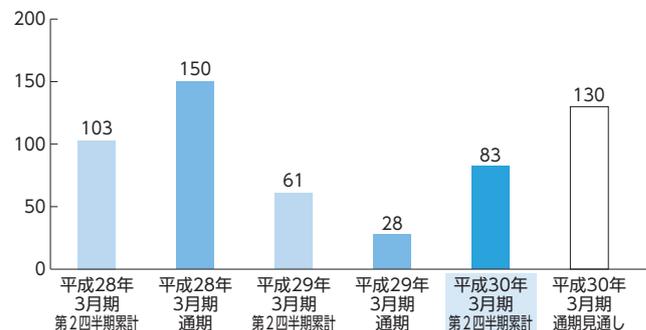
●営業利益(億円)



●経常利益(億円)



●親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(億円)



Q

各施策の進捗と今後の課題について教えてください。

A

①中期経営計画「NTN100」の進捗

当社グループは、平成27年4月から創業100周年を迎える来年3月までの3年間の中期経営計画「NTN100」に取り組んでおります。創業100周年と次の100年の持続的成長のため、「あるべき姿」に向けた変革と礎づくりの3年間と位置づけて、「攻める経営」、「稼ぐ経営」、「築く経営」の3つの基本方針のもと、重点施策を進めております。

<攻める経営>

軸受とドライブシャフトに次ぐ「新たな領域における事業展開」として、4つの領域で事業化を進めております。自然エネルギー事業では、風力と太陽光の2つの自然エネルギーで発電し、夜間にLED照明を点灯する「ハイブリッド街路灯」を昨年7月に販売開始しました。LED照明に加えて、通信機能やカメラなどを搭載することで、防災や防犯、見守りなどの実証実験を行っております。また、農業用水路等に置くだけで発電する「マイクロ水車」の販売を本年7月に開始しました。大規模水力発電設備の取水口における独立型電源装置などへの活用を進めております。さらに、10kWの「垂直軸風車」の専門機関からの認証取得を進めており、順次、販売開始してまいります。EV事業では、「新インホイールモータシステム」を開発し、環境問題が深刻な海外にも提案を進めております。また、昨年5月より「電動モータ・アクチュエータ」

を商品ラインナップに加え、自動車の電動化や省燃費化に貢献する商品として提案を進めております。さらに、本年10月より欧州を中心に普及が拡大する48Vマイルドハイブリッドシステムに対応した、モータ・ジェネレータ機能付きハブベアリング「eHUB（イーハブ）」の提案を進めております。当社が世界に誇るハブベアリングの商品開発力と、インホイールモータシステムなどで培ったモータ制御技術やモジュール化技術を活用して自動車の省燃費化に貢献してまいります。ロボット関連事業では、「人との協働、共生」をテーマに、自動生産設備の生産性向上に貢献する「パラレルリンク型高速角度制御装置」等の市場展開を加速しております。サービス・ソリューション事業では、「風力発電装置用状態監視システムWind Doctor®」で培われた軸受の状態監視や診断、センシング技術を、鉄道等の他分野にも積極的に展開しております。また、本年9月に国立大学法人大阪大学大学院工学研究科に「NTN次世代協働研究所」を設立いたしました。人工知能（AI）を活用した、自動車や鉄道車両、工作機械などの軸受余寿命予測の開発や、多機能センサに関する技術開発、高度なシミュレーション解析技術を適用した商品開発に取り組んでまいります。

「アフターマーケット事業の拡大」では、「品揃えとエンジニアリング・サービスで顧客満足度世界No.1」を目指しております。日本のお客様にはアフターマーケットアカデミー（技術講習会、軸受診断等）の開催など技術サービスの強化を図っております。海外においても、欧米をはじめ中国等で自動車補修ビジネスを拡大しており、産業機械補修ビジネスでは代理店とその先のお客様へテク

ニカルサービスカーで訪問するキャラバン活動を強化することで、信頼関係の構築と販売拡大を進めております。生産面では、株式会社NTN能登製作所(石川県志賀町)に熱処理工場を増設し、能登地区における軸受の一貫生産体制を確立させることで、生産リードタイム短縮と安定した供給体制を実現してまいります。

<稼ぐ経営>

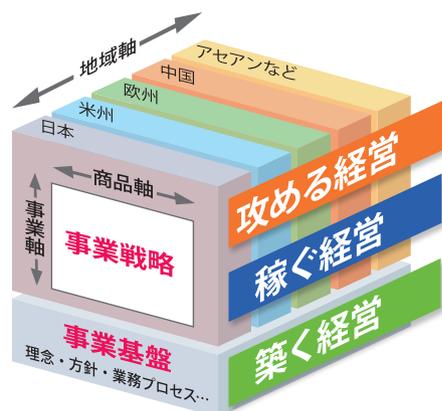
「ドライブシャフト事業の構造改革」では、収益拡大を最重要課題と位置づけ、品質・コスト・納期・技術面も含めて、顧客満足度世界No.1の「NTNのドライブシャフト」と呼ばれるように体質を改革しております。販売・技術面では、新たなコンセプトと高度な製造技術により、当社が世界トップシェアを誇るハブベアリングも含めてモ

ジュール化した「アドバンスド ドライブシャフト モジュール」等を開発し、高付加価値商品の構成を高めております。生産面では、自動車生産台数の増加、自動車メーカーの拠点新設を背景に、中国や米国等で新工場を設立し、グローバルで現地生産比率を高めるとともに、比例費削減等による収益改善を進めています。

「次世代技術による『もの造り』」では、「次の100年に向けた『もの造り』方式の革新」をテーマに、「電子ビーム溶接」等の革新的な製造技術を導入することで、コスト競争力の強化やリードタイムの短縮、省エネルギーの実現等を図っております。また、「品質保証本部」を中心に、「メイドバイNTN」による世界同一基準でのグローバル品質保証体制の強化を推進してまいります。

「NTN100」の基本方針

3つの基本方針のもとで重点施策を進め、お客様にとってCo-creative(共創的)なパートナー企業への変革を図る



経営資源(ひと・もの・かね)を重点分野へ集中

- ① 新たな領域での事業展開
- ② アフターマーケット事業の拡大

規模に依存せず価値を追求する企業への変革

- ③ ドライブシャフト事業の構造改革
- ④ 次世代技術による「もの造り」

経営基盤・財務基盤の強化

- ⑤ 真のグローバル企業としての経営基盤の確立
- ⑥ 収益管理の強化と資産効率の向上

トップインタビュー

<築く経営>

「経営基盤の強化」では、世界共通の行動規範としての「企業理念」について、当社グループ全従業員への浸透を図るほか、グローバル企業として、コンプライアンスの徹底やガバナンス、ダイバーシティへの対応強化を進めております。国や地域を越えて活躍できるグローバル人材の育成等を強化し、現場力を高める継続的「ひと造り」を推進しています。日本では昨年4月に施行された女性活躍推進法に基づき、育児短時間勤務制度の拡充や企業内託児所の整備等、更に働きやすい職場と環境づくりに取り組んでおります。当社が事業展開する地域社会におけるCSR（社会的責任）活動にも注力し、地元から愛される企業としての社会貢献や、環境保全活動等の取組みをますます拡大してまいります。

「財務基盤の強化」では、「収益管理の強化と資産効率の向上」に向けた諸施策を進めております。有利子負債の削減と棚卸資産回転率の向上、退職給付債務の圧縮、売上高利益率向上の諸施策を通じて、財務体質の健全化を目指し、長期的に安定した株主の皆様への利益還元を継続的に実施してまいります。

現場力を高める継続的「ひと造り」 コンプライアンス体制の強化



第3回NTN技能オリンピック



第3回CSRグローバル会議

②法令・規則遵守のための体制強化

当社グループは、コンプライアンスの徹底を最重要課題の一つとして捉えており、法令・規則遵守のための体制強化に取り組んでおります。

<各当局の調査等の経過>

当社は、平成24年6月、ベアリング（軸受）の国内取引に関して、独占禁止法（以下、「独禁法」）違反の容疑で、当社元役員とともに東京地方検察庁より起訴され、平成25年3月には、公正取引委員会より排除措置命令及び課徴金納付命令（7,231百万円）を受けました。これらの前提となる事実認定は、当社の認識とは異なりますので、同年4月、両命令を不服として審判請求を行い、現在も審判手続が係属中です。また、刑事裁判においては、平成27年2月に東京地方裁判所より宣告された有罪判決に対し控訴していましたが、昨年3月に控訴を棄却する旨の控訴審判決が言い渡されました。当社及び当社元役員は本判決に不服があるため最高裁判所へ上告しております。

海外におきましては、本年6月、韓国の連結子会社は、韓国市場における自動車用ベアリング（軸受）の一部取引に関して、韓国公正取引委員会より、無罪として審査手続を完了した旨の通知を受領しました。一方、ブラジル等の連結子会社において、当局の調査等を受けております。

当社並びに当社の米国及びカナダ等の連結子会社は、他の事業者と共同してベアリング（軸受）の販売価格の引上げを決定したとして、米国及びカナダにおいて複数の民事訴訟（クラスアクション）の提起を受けております。

当社を含む軸受メーカ4社は、英国競争審判所においてPeugeot S.A.及び同社のグループ会社 計19社（以下「原告等」）より損害賠償額4億3,770万ユーロ（暫定額）を連帯して支払うよう求める訴訟の提起を受けています。本訴訟は、平成26年3月19日付の欧州委員会決定の対象となった欧州競争法違反行為に関連して、原告等が損害を被ったとして提起されたものです。

当社又は当社の関係会社は、上記と同様の訴訟等を今後提起される可能性があります。

株主の皆様には、多大なご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

当社グループは、今後とも法令、社会規範、倫理、社内規程等の遵守をグローバルに徹底するための体制を強化し、更に、公正・誠実な競争による事業活動を推進してまいります。

<体制強化>

独禁法及び下請代金支払遅延等防止法遵守の徹底のため、「公正取引監察委員会」の指示の下、「公正取引推進部」を中心に活動を推進しています。

また、平成26年に設置しました「CSR（社会的責任）推進本部」は、公正取引推進部を含む企業の社会的責任に関連する部門を統括し、法規範の遵守と社会的責任を当社グループ全体で推進しています。また同時に、各海外地区総支配人室に設置しました「内部統制課」との連携を強化し、海外におけるコンプライアンス体制を構築・強化しています。

公正取引推進部は、社内研修等啓発活動に加え、独

禁法遵守に関する自己監査、競合他社との接触を予防・監視するための事前申請等を義務付け、競合他社との接触状況の全体像を確認できる体制にしています。昨年はコンプライアンスの重要性を再確認する機会として7月26日を「コンプライアンスを考える日」に制定しました。また独禁法遵守に係る小冊子を国内従業員へ配布し独禁法遵守意識の強化に努めています。

海外におきましても、各海外地域における内部統制課との連携により、地域主体の研修や事前申請等の審査及び自己監査を行う体制を構築し、各地域の競争法に対応した遵法体制を整備しています。

この体制で、継続的な教育・啓発等の活動と、総括的な統制の強化を実施しております。

当社グループは、新しい技術の創造と新商品の開発を通じて国際社会に貢献するため、法令・規則の遵守、公正・誠実を基本に、以上の諸施策を実施することにより経営基盤の一層の強化と業務の効率化に努め、収益向上に邁進してまいります。株主の皆様には今後ともご支援とご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

通期の業績見通し

(億円)

	当期(見通し) 平成30年3月期	前期(実績) 平成29年3月期
売上高	7,200	6,833
営業利益	390	356
営業利益率	5.4%	5.2%
経常利益	320	296
親会社株主に帰属する 当期純利益	130	28

セグメント別の概況

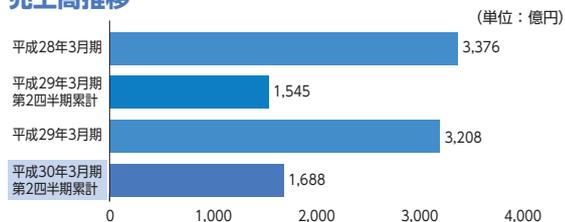
日本 平成30年3月期 (第2四半期累計)

売上高 **1,688** 億円

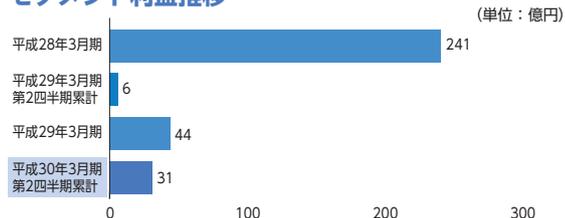
セグメント別
売上高構成比
38.9%

販売につきましては、補修市場向けは産業機械補修向けで増加しました。産業機械市場向けは建設機械向けなどで増加し、自動車市場向けも客先需要の拡大などにより増加しました。この結果、売上高は168,866百万円（前年同期比9.2%増）となり、セグメント利益は販売増加の効果や為替の影響などにより3,172百万円（前年同期比412.4%増）となりました。

売上高推移



セグメント利益推移



主な施策

- 「NTN次世代協働研究所」を大阪大学に開設
- 品質保証本部の新設によるグローバルでの品質保証体制の確立・品質情報の一元管理
- 「垂直軸風車」の実証試験開始

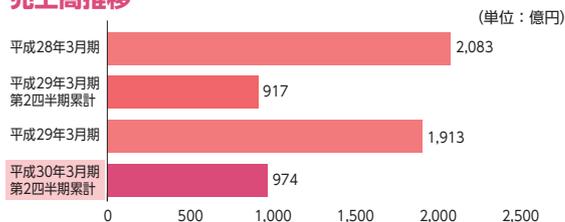
米州 平成30年3月期 (第2四半期累計)

売上高 **974** 億円

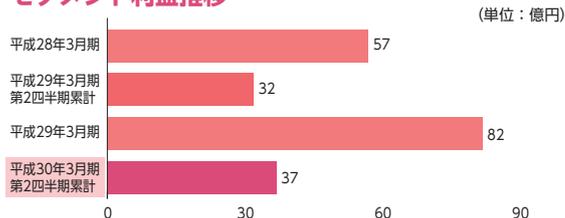
セグメント別
売上高構成比
22.4%

販売につきましては、補修市場向けは産業機械補修向けで増加しました。産業機械市場向けは建設機械向けなどで増加しましたが、自動車市場向けは客先需要の低減などにより減少しました。全体としては、売上高は97,406百万円（前年同期比6.2%増）となり、セグメント利益は比例費の削減などにより3,706百万円（前年同期比13.1%増）となりました。

売上高推移



セグメント利益推移



主な施策

- NTN-BOWER CORP.でドライブシャフトのBJカセット量産
- NTN DRIVESHAFT ANDERSON, INC.でのドライブシャフト量産開始
- NTK Precision Axle Corp.の第2工場を新設

欧州

平成30年3月期 (第2四半期累計)

セグメント別
売上高構成比

20.9%

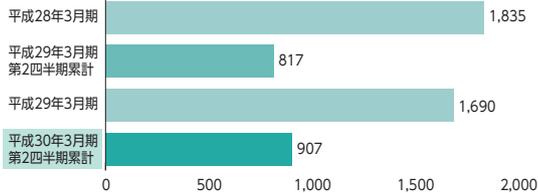
売上高

907 億円

販売につきましては、補修市場向けは産業機械補修向け、及び自動車補修向けとも増加しました。産業機械市場向けは変減速機向けなどで増加し、自動車市場向けも客先需要の拡大などにより増加しました。この結果、売上高は90,789百万円（前年同期比11.1%増）となり、セグメント利益は販売増加の効果や為替の影響などにより1,180百万円（前年同期比14.2%増）となりました。

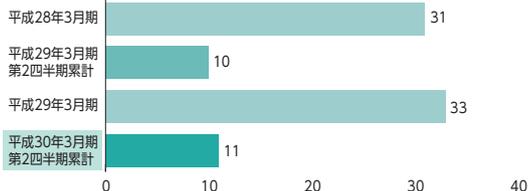
売上高推移

(単位：億円)



セグメント利益推移

(単位：億円)



主な施策

- 自動車向け補修の販売店ネットワークの強化による販売促進
- MRO向け販売拡大活動の推進

アジア他

平成30年3月期
(第2四半期累計)

セグメント別
売上高構成比

17.8%

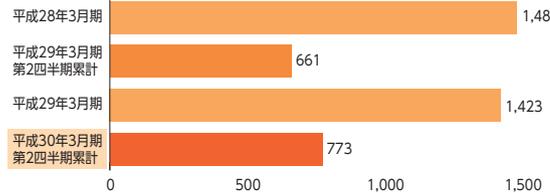
売上高

773 億円

販売につきましては、補修市場向けは産業機械補修向けで増加しました。産業機械市場向けは風力発電向けや建設機械向けなどで増加し、自動車市場向けは客先需要の拡大などにより増加しました。この結果、売上高は77,396百万円（前年同期比17.0%増）となり、セグメント利益は販売増加の効果や為替の影響などにより9,104百万円（前年同期比49.2%増）となりました。

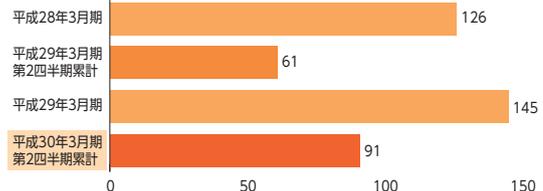
売上高推移

(単位：億円)



セグメント利益推移

(単位：億円)



主な施策

- 建設機械・工作機械向け販売拡大活動の推進
- 中国地区版「贈収賄防止規程」の運用開始と監査活動の推進

事業形態別の概況

補修市場向け

販売増加の効果などで増収増益

産業機械補修向けの増加や為替の影響などにより売上高は56,245百万円（前年同期比10.9%増）となりました。営業利益は販売増加の効果などにより6,845百万円（前年同期比1.9%増）となりました。



代理店を通じた一般機械の補修用軸受販売、自動車補修部品（オートパーツ）販売と、鉱山、製紙、鉄鋼機械などの補修市場を対象とした事業です。グローバルな供給体制を整備し、技術サービスの提供も行っています。

密封形4列円すいころ軸受



自動車用パーツキット



鉄鋼機械（圧延機）



テクニカル・サービスカーによるキャラバン活動



技術講習会

産業機械市場向け

販売増加の効果などで

建設機械向けや変減速機向けなどの増加や為替の影響などにより売上高は57,329百万円（前年同期比24.3%増）となりました。営業利益は販売増加の効果などにより828百万円（前年同期比123.2%増）となりました。

建設機械や鉄道車両、工作機械、農業機械、航空・宇宙、事務機器、風力発電装置などさまざまな産業機械分野に向け、大小あらゆる種類の軸受に新技術を付加して販売しています。

航空機（ジェットエンジン用軸受）



3点接触玉軸受*



円筒ころ軸受*

高速鉄道車両（車軸用軸受）



N700A 新幹線用軸受*



TGV用軸受*



風力発電装置（風力発電装置用軸受）



主軸用軸受



風力発電機ナセル部



増速機用軸受*

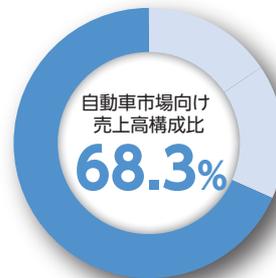
増収増益



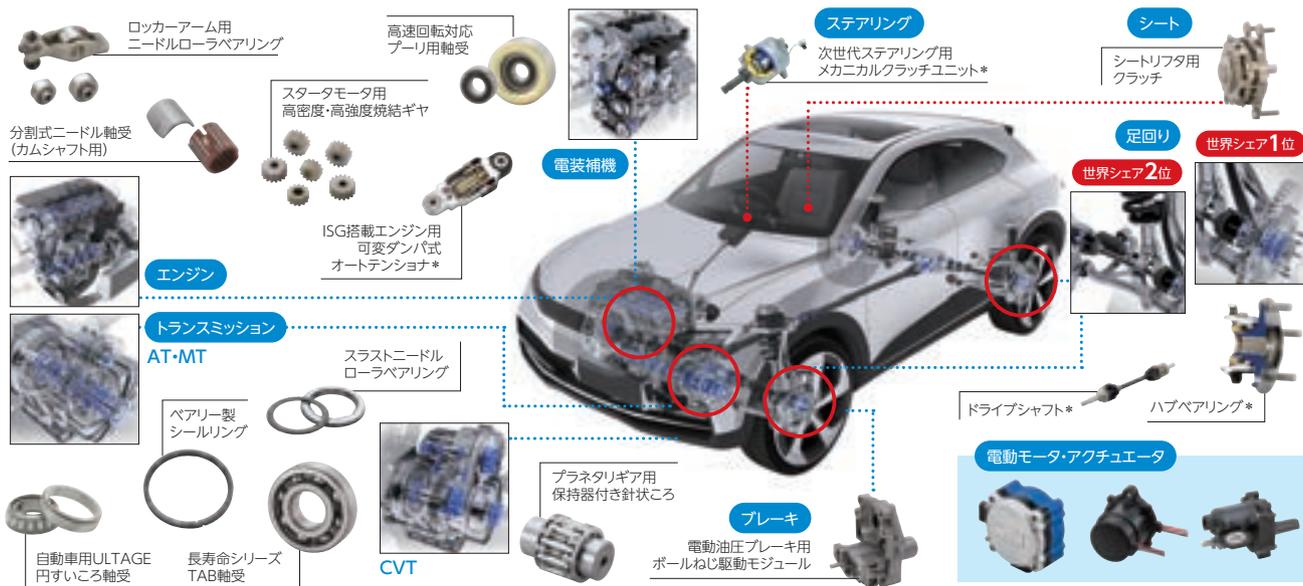
自動車市場向け

客先需要の拡大などで増収増益

客先需要の拡大や為替の影響などにより売上高は244,360百万円（前年同期比6.2%増）となりました。営業利益は販売増加の効果などにより9,154百万円（前年同期比4.6%増）となりました。



自動車や自動車関連市場向けの事業です。ハブベアリングやドライブシャフト、ニードルローラベアリングなどを中心に、世界各国の自動車メーカーや自動車関連メーカーに向けて新しい技術と新商品を提案しています。EV（燃料電池車・電気自動車）関連商品の開発にも注力しています。



*構造を見やすくするため、商品をカットした写真を掲載しています。

連結財務諸表

四半期連結貸借対照表			(単位:百万円)
科目	当第2四半期 (平成29年9月30日)	前期 (平成29年3月31日)	
(資産の部)			
流動資産	448,043	434,929	
現金及び預金	87,652	80,001	
受取手形及び売掛金	136,731	136,847	
電子記録債権	4,961	5,494	
商品及び製品	99,389	97,405	
仕掛品	49,409	43,629	
原材料及び貯蔵品	33,683	30,446	
繰延税金資産	7,724	8,405	
短期貸付金	95	94	
その他	29,350	33,480	
貸倒引当金	△955	△876	
固定資産	376,889	363,961	
有形固定資産	289,739	284,611	
建物及び構築物(純額)	84,793	83,259	
機械装置及び運搬具(純額)	145,864	144,301	
その他(純額)	59,081	57,051	
無形固定資産	19,482	15,786	
投資その他の資産	67,667	63,563	
投資有価証券	59,830	54,386	
繰延税金資産	4,834	5,150	
その他	3,258	4,264	
貸倒引当金	△255	△237	
資産合計	824,932	798,891	

			(単位:百万円)
科目	当第2四半期 (平成29年9月30日)	前期 (平成29年3月31日)	
(負債の部)			
流動負債	316,271	315,027	
支払手形及び買掛金	59,133	59,261	
電子記録債務	62,852	58,131	
短期借入金	130,481	133,347	
未払法人税等	4,222	3,057	
役員賞与引当金	89	150	
関係会社支援損失引当金	2,242	2,173	
その他	57,249	58,905	
固定負債	243,694	238,812	
社債	20,000	20,000	
長期借入金	171,193	166,822	
製品補償引当金	435	400	
退職給付に係る負債	42,704	42,148	
その他	9,360	9,441	
負債合計	559,965	553,840	
(純資産の部)			
株主資本	240,330	234,641	
資本金	54,346	54,346	
資本剰余金	66,918	66,943	
利益剰余金	119,881	114,158	
自己株式	△815	△807	
その他の包括利益累計額	7,367	△5,397	
その他有価証券評価差額金	17,355	13,507	
為替換算調整勘定	△1,507	△10,005	
退職給付に係る調整累計額	△8,480	△8,899	
非支配株主持分	17,267	15,806	
純資産合計	264,966	245,050	
負債純資産合計	824,932	798,891	

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) 〔平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで〕	前第2四半期(累計) 〔平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで〕
売上高	357,935	326,824
売上原価	292,636	266,071
売上総利益	65,298	60,752
販売費及び一般管理費	48,470	44,911
営業利益	16,828	15,841
営業外収益	3,204	3,733
受取利息	303	211
受取配当金	623	459
持分法による投資利益	206	291
為替差益	1,103	—
デリバティブ評価益	—	1,840
その他	969	930
営業外費用	6,391	8,043
支払利息	1,969	2,114
デリバティブ評価損	1,472	—
為替差損	—	3,875
その他	2,949	2,053
経常利益	13,641	11,531
特別損失	—	135
固定資産売却損	—	135
税金等調整前四半期純利益	13,641	11,395
法人税等	4,325	4,633
四半期純利益	9,315	6,762
非支配株主に帰属する四半期純利益	934	636
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,381	6,126

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) 〔平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで〕	前第2四半期(累計) 〔平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで〕
営業活動によるキャッシュ・フロー	32,236	37,309
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,987	△23,613
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,330	△12,877
現金及び現金同等物に係る換算差額	716	△2,587
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	7,634	△1,768
現金及び現金同等物の期首残高	79,284	67,310
現金及び現金同等物の四半期末残高	86,918	65,542

当期の配当について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を最重要方針の一つと考えております。配当につきましては、将来の成長のために必要な研究開発や設備投資等の資金を確保し、中長期的な視点から安定的に継続しつつ、経営成績に応じて実施することを基本方針といたします。具体的にはキャッシュ・フローの状況を勘案のうえ、連結配当性向を重視し決定することにしております。

当中間配当金につきましては、上記の基本方針を踏まえ総合的に勘案しました結果、創業100周年記念配当金2.5円を含め、1株につき7.5円とさせていただきます。

配当金の推移(円)



TOPICS

1

自動車業界におけるEV化のトレンドとEV化を追い風とする自動車事業の拡大

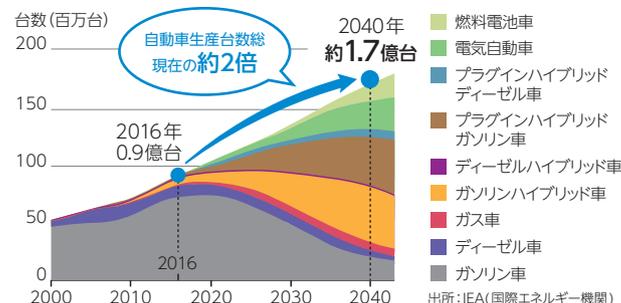
NTNは、今後予想されるEV(燃料電池車・電気自動車)の普及加速を、自動車事業拡大の大きなチャンスと捉えています。

2040年度の新車生産台数について、EVは2020年頃から増加が予想され、エンジン車(PHV/HV含む)も約1.5倍に増加し、全体では約2倍への増加を予想するなど、自動車の生産は引き続き拡大が続く見通しです。

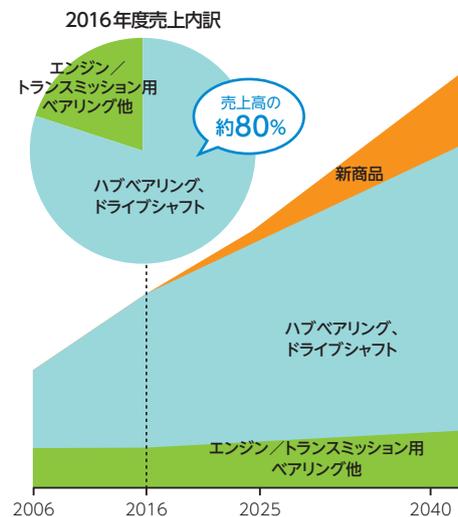
NTNの自動車向け商品売上の約80% (2016年度実績)を占めるドライブシャフト、ハブベアリングは、モータ駆動のEVにおいても、必要な部品です。さらに、生産台数の増加が見込まれるEVに対しては、電動モータ・アクチュエータや、世界シェアNo.1を誇るハブベアリングの技術と、インホイールモータの開発で培った技術を活用したモータ・ジェネレータ機能付ハブベアリング ^{eHUB} など、EV関連の新商品の開発を進めており、基盤商品の販売拡大とあわせて、自動車事業の更なる拡大を目指します。



車種別新車生産台数予想



NTNの自動車事業の商品の需要予測



新商品

新たな領域として取組み、自動車の電動化やEV化に対応した商品を発売
2025年度に売上300億円を目標



ハブベアリング

EVにも**世界シェアNo.1**のハブベアリングが必要。新車生産の伸びに合わせて販売増加を見込む



ドライブシャフト

EVにも**世界シェアNo.2**のドライブシャフトが必要。新興国のFF(前輪駆動)車化による需要増などで、新車生産の伸びを超える需要増加を見込む



エンジン/トランスミッション用ベアリング他

エンジン車の生産増加、EV増加に伴う新規ベアリング需要、HVのモータ用ベアリング等の需要増加を見込む



「NTN次世代協働研究所」を 大阪大学に開設

NTNは、新規事業の創出と技術革新の加速を目的に、2017年9月に国立大学法人大阪大学大学院工学研究科に「NTN次世代協働研究所[※]」を設立しました。

すでに大阪大学とは、創薬や再生医療への適用を目的として当社の独自技術である微細塗布装置を用いた人工三次元細胞組織の研究開発を進めており、本研究所では人工知能(AI)を活用した軸受の余寿命を予測する開発や、軸受破損の未然防止を可能にする技術開発に着手する予定です。また、省エネルギーや自動車の低燃費化に向けた軽量・コンパクトな商品開発や、開発期間の短縮に貢献する研究にも取り組んでいきます。

[※] 大阪大学の協働研究所制度とは：企業と大阪大学が共通の場で相互に研究の情報・技術・人材・設備等を利用して、研究成果の産業への活用促進、研究高度化、双方の高度人材育成を目指す制度

「NTN次世代協働研究所」概要

設置場所：大阪大学大学院工学研究科内
(大阪府吹田市山田丘2番1号)

研究所長：赤松良信

(大阪大学大学院工学研究科特任教授 元 NTN執行役員)

副所長：田中敏宏(大阪大学大学院工学研究科長)



2017年9月5日に大阪大学キャンパス内で実施された開所式

風力発電装置主軸用 「左右列非対称自動調心ころ軸受」を開発

左右列非対称自動調心ころ軸受

左右列のころの
長さ・接触角が異なる
非対称設計

断面図



開発品

従来品

メリット

コンパクト・軽量

従来品と同等の寿命を持つ軸受を内径約10%、質量約30%減で設計可能

ころの安定性向上

内輪に中つばを有し、ころの最大径位置を中心からずらした設計とすることで、ころの自転軸の傾きを防止

耐摩耗性の向上

PV値(接触面圧×転がりすべり速度)約30%低減

長寿命

計算寿命が従来品比約2.5倍に向上

同一主要寸法で設計可

従来品と同じ主要寸法で設計可能

NTNは、軸受内部のころを左右列で非対称設計とすることで、軸受の計算寿命を従来品比約2.5倍とし、耐摩耗特性も向上させた風力発電装置主軸用「左右列非対称自動調心ころ軸受」を開発しました。

風力発電装置の主軸用軸受には、高負荷容量等に優れた自動調心ころ軸受が多く使用されています。本開発品は、風力発電装置の主軸用軸受特有の使用条件に対応するため、軸受内部のころを左右非対称に設計することで荷重を適切に分担し、長寿命化と耐摩耗特性の向上を実現し、風力発電装置のコンパクト化・軽量化に貢献します。

「なめらかな世界」の実現に向けて

Global Network

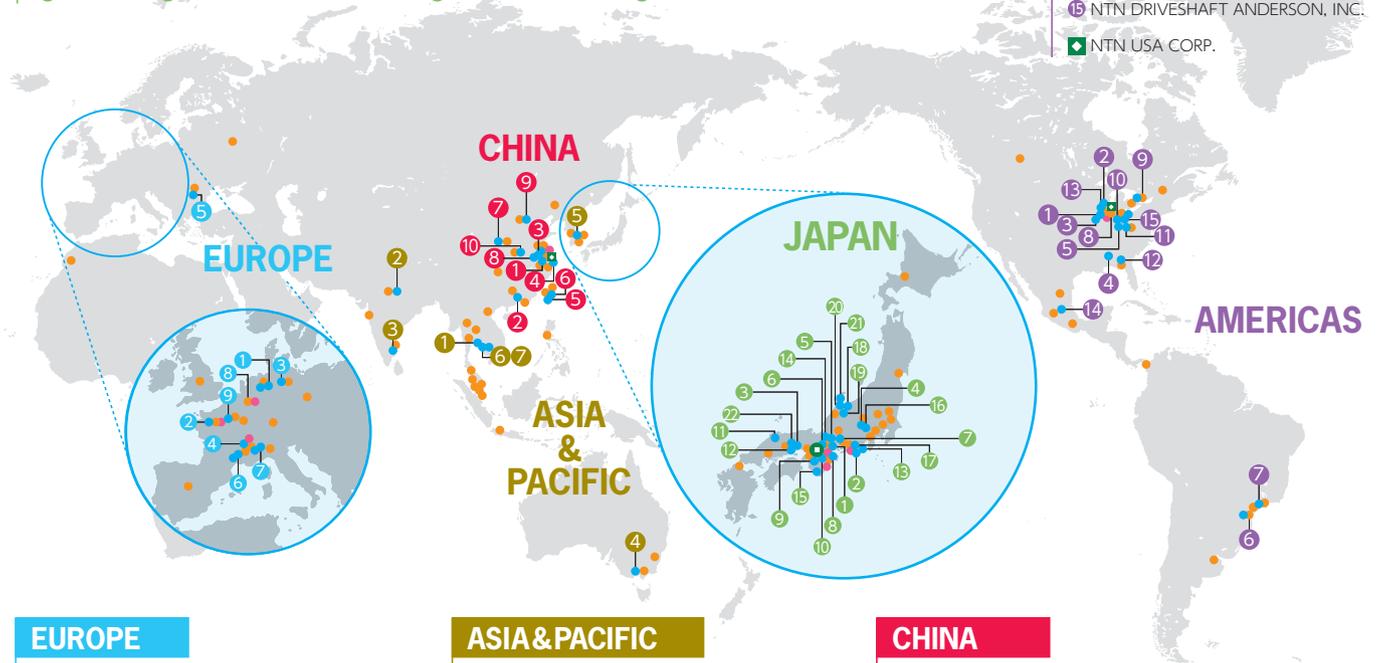
■ 本社 ■ 販売拠点 ■ 研究開発拠点 ■ 生産拠点 ■ 統括会社

JAPAN

- | | | | | |
|---------|-----------------------|-----------------|------------------|----------------|
| ● 本社 | 5 (株)NTN三重製作所 | 10 光精軌工業 (株) | 15 (株)NTN紀南製作所 | 20 (株)NTN志賀製作所 |
| 1 桑名製作所 | 6 NTN精密樹脂 (株) | 11 NTN鋳造 (株) | 16 (株)NTN上伊那製作所 | 21 (株)NTN能登製作所 |
| 2 磐田製作所 | 7 NTNアドバンストマテリアルズ (株) | 12 (株)NTN備前製作所 | 17 (株)NTN袋井製作所 | 22 (株)NTN赤磐製作所 |
| 3 岡山製作所 | 8 (株)NTN三雲製作所 | 13 (株)NTN御前崎製作所 | 18 (株)NTN羽咋製作所 | |
| 4 長野製作所 | 9 (株)NTN金剛製作所 | 14 (株)NTN多度製作所 | 19 (株)NTN宝達志水製作所 | |

AMERICAS

- 1 AMERICAN NTN BEARING MFG.CORP. Schiller Park Plant
 - 2 AMERICAN NTN BEARING MFG.CORP. Elgin Plant
 - 3 NTN-BOWER CORP. Macomb Plant
 - 4 NTN-BOWER CORP. Hamilton Plant
 - 5 NTN DRIVESHAFT, INC.
 - 6 SNR ROLAMENTOS DO BRASIL LTDA.
 - 7 NTN Driveshaft do Brasil
 - 8 NTN BEARING CORP.OF AMERICA
 - 9 NTN BEARING CORP.OF CANADA LTD.
 - 10 NTK PRECISION AXLE CORP.
 - 11 ASAHİ FORGE OF AMERICA CORP.
 - 12 Seohan-NTN Driveshaft USA CORP.
 - 13 NTA PRECISION AXLE CORP.
 - 14 NTN MANUFACTURING DE MEXICO, S.A. DE C.V.
 - 15 NTN DRIVESHAFT ANDERSON, INC.
- ◆ NTN USA CORP.



EUROPE

- 1 NTN Kugellagerfabrik (Deutschland) G.m.b.H.
- 2 NTN TRANSMISSIONS EUROPE
- 3 NTN Antriebstechnik G.m.b.H.
- 4 NTN-SNR ROULEMENTS
- 5 NTN-SNR RULMENTI S.R.L.
- 6 SNR CEVENNES
- 7 ICSA INDUSTRIA CUSCINETTI S.P.A.
- 8 NTN-Wälzlager (Europa) G.m.b.H.
- 9 NTN TRANSMISSIONS EUROPE CREZANCY

ASIA & PACIFIC

- 1 NTN MANUFACTURING (THAILAND)CO.,LTD. Eastern Seaboard Automotive Products & Composite Material Products Plant
- 2 NTN NEI Manufacturing India Private LTD. Bawal Plant
- 3 NTN NEI Manufacturing India Private LTD. Chennai Plant
- 4 UNIDRIVE PTY LTD.
- 5 Seohan-NTN Bearing CO., LTD.
- 6 NTN MANUFACTURING (THAILAND) CO., LTD. Pinthong Automotive Products Plant
- 7 NTPT CO., LTD.

CHINA

- 1 上海恩梯恩精密機電有限公司
 - 2 廣州恩梯恩裕隆傳動系統有限公司
 - 3 恩梯恩阿曼必(常州)有限公司
 - 4 上海東培企業有限公司
 - 5 台惟工業股份有限公司
 - 6 東培工業股份有限公司
 - 7 恩梯恩LYC(洛陽)精密軸承有限公司
 - 8 南京恩梯恩精密機電有限公司
 - 9 北京瑞韓恩梯恩汽車部件有限公司
 - 10 襄陽恩梯恩裕隆傳動系統有限公司
- ◆ 恩梯恩(中國)投資有限公司

■ 当社の概要 (平成29年9月30日現在)

社名	NTN株式会社
商標	NTN
創業	1918年3月
設立	1934年3月
資本金	543億円
従業員	5,423名(連結:25,035名)
事業内容	軸受、ドライブシャフト、 精密機器商品等の製造及び販売

株式情報

■ 株主数及び株式数 (平成29年9月30日現在)

- 株主数..... 28,010名
- 発行済株式数..... 532,463,527株

■ 大株主 (平成29年9月30日現在)

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	44,366	8.33
第一生命保険株式会社	23,278	4.37
明治安田生命保険相互会社	22,467	4.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	21,864	4.10
株式会社三菱東京UFJ銀行	21,674	4.07
NTN共栄会	12,652	2.37
三菱UFJ信託銀行株式会社	11,870	2.22
日本生命保険相互会社	9,206	1.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	8,739	1.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	7,487	1.40

■ 役員 (平成29年9月30日現在)

取締役社長 (代表取締役)	大久保 博 司
取締役副社長 (代表取締役)	井上 博 徳
常務取締役	寺阪 至 徳
常務取締役	大橋 啓 二
常務取締役	宮澤 秀 彰
常務取締役	後藤 逸 司
取締役	仲野 浩 史
取締役	辻 秀 文
取締役	梅本 武 彦
取締役	白鳥 俊 則
取締役	川島 一 貴
取締役	鶴飼 英 一
*1 取締役	和田 彰
*1 取締役	津田 登
*2 常勤監査役	川原 廣 治
常勤監査役	井山 雄 介
*2 監査役	加護野 忠 男
*2 監査役	川上 良

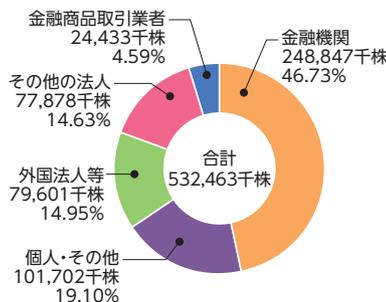
*1印は会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
*2印は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

常務執行役員	森 夏比古
常務執行役員	十 河 哲 也
常務執行役員	尾 迫 功
常務執行役員	小岩井 功
常務執行役員	亀 高 晃 司
常務執行役員	江 上 正 樹
執行役員	松 尾 隆 之
執行役員	播 磨 悦
執行役員	ピート アイク
執行役員	岡 阪 アイク
執行役員	アラン ショバン
執行役員	中 溝 栄 一
執行役員	萩 原 一 樹
執行役員	三 宅 勝 明
執行役員	石 川 浩 二
執行役員	野 々 健 二
執行役員	上 田 智 明
執行役員	山 本 正 弘
執行役員	渡 江 エル プル
執行役員	渡 邊 郁 雄
執行役員	西 口 雅 之
執行役員	皆 見 章 行
執行役員	小 森 繁 文
執行役員	藤 井 隆 吉
執行役員	小 澤 伸 吉

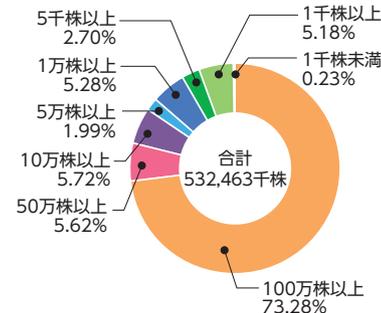
会計監査人 新日本有限責任監査法人

■ 株式分布状況 (平成29年9月30日現在)

● 所有者別



● 所有株数別



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 事業年度終了後3か月内
- 基準日 毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主をもって、その事業年度に関する定時株主総会において権利を行使することができる株主とします。その他必要あるときは、あらかじめ公告して、基準日を定めます。
- 剰余金の配当
受領株主確定日 3月31日
- 中間配当
受領株主確定日 9月30日
- 公告方法 電子公告
ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載の場合のホームページアドレス
《<http://www.ntn.co.jp>》
- 株主名簿管理人 〒100-8212
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先 〒541-8502
大阪市中央区伏見町3丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話（通話料無料） 0120-094-777
- ご注意
 - 1.株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
 - 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

単元株式数の変更に関するお知らせ

当社は平成29年10月1日付で、単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。

株主の皆様におかれましては、本件に関する一切のお手続きは不要ですので、念のため申し添えます。

ホームページのご案内

NTNのホームページでは、企業情報や決算情報を豊富に掲載しています。最新のトピックスを随時更新し、CSR活動への取組みや技術関連情報、企業広告の紹介など、幅広い内容となっています。NTNをより深くご理解いただくため、ぜひご覧ください。

<http://www.ntn.co.jp>



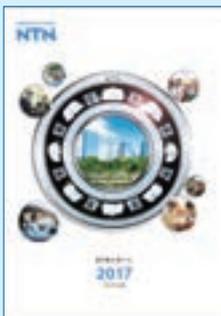
◀ IR情報



◀ 統合報告書「NTNレポート」
(アニュアル&CSRレポート)



▶ 創業100周年特設サイト
NTNが目指す社会



「NTNレポート2017」を 発行しました。

すべてのステークホルダーのご理解とご支援を賜ることが重要であると考え、経営計画や業績に加えて、CSR活動、環境保全への取組みなどを積極的に開示しています。



◀ 商品・技術情報



創業100周年のロゴは、回転する動きが滑らかに精緻に組み合わさったトライボロジーのイメージとともに、次の時代へ滑らかに回転しつづける持続性と、将来への成長を表現しています。

NTNは、「なめらかさ」をもたらす技術によって、

～なめらかな社会の実現に貢献します～

ベアリングで磨いてきたその技術は、これからの電気自動車やロボット、自然エネルギー社会までも、なめらかに変えていきます

世界をなめらかにする仕事。



キャッチコピーは、当社の社名を多くの方に覚えていただけるよう社名の頭文字をとって、「なんてなめらか」としました。